

教科(科目)	国語（言語文化）	単位数	3	学年(コース)	1 学年
使用教科書	高等学校 精選言語文化（第一学習社）				
副教材等	完全マスター古典文法（第一学習社） 新明説漢文（尚文出版） 完全マスター古典文法 準拠ノート（第一学習社） 新明説漢文シリーズ基本練習ノート（尚文出版）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育成します～ ①確かな学力と豊かな人間性を身に付け、様々な場面に対応できる知識・技能を有し、何事にも主体的・創造的に取り組む力を育てます。 ②国際感覚や多様性を理解する姿勢を身に付け、広い視野を持ち、他者と協働し社会に貢献する態度を育てます。 ③よりよい社会を創造するリーダーとなるにふさわしい精神と、高い目標の実現のために粘り強く努力し続ける姿勢を育てます。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①生徒の資質能力の最大限の伸長のために、適切な科目の配置やICTの活用などに取り組み、確かな学力に基づいた思考・判断・表現する力を育成します。 ②生徒の個性を尊重した進路実現のために、地域の人的資源を活用して様々な体験をする機会を設け、キャリア教育の充実を図ります。 ③生徒の視野を広げ、多様な価値観を身に付けさせるために、様々な探究活動や体験活動を通して、教科横断的な思考と協働活動の中で合意形成する力を育てます。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

(1) 基本的な言語事項の習得を重視し、文章に用いられる語句の意味・用法の理解を目指します。 (2) 古典の文章に親しみ、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、言語文化に対する関心や理解を深めることを目指します。 (3) 文章の内容を的確に読み取った上で、自分の考えを言葉で表現して他者と伝え合う力をつけることを目指します。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

5 評価方法

	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	- 課題調査や定期調査 - 小テスト - ワークシート などから評価します。	- 課題調査や定期調査 - 授業中の発言、発表や討論への取り組み - ワークシート - 振り返りシート などから評価します。	- 授業中の発言、発表や討論への取り組み - ワークシート - 振り返りシート などから、評価します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4 5	古文入門	1 2 B「読むこと」古典	『宇治拾遺物語』 児のそら寝 絵仏師良秀	・我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典の世界に親しむことの意義を知る。 ・古典の文章に慣れるとともに説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・歴史的仮名遣いや古今異義語、品詞の種類について、文語のきまり、用言の活用について理解する。 ・積極的に説話を読み味わい、叙述に基づいて説話のおもしろさを捉えようとしている。	b b a c	授業態度 発問評価 指名音読 ワークシート 小テスト 課題考査 定期テスト 振り返りシート
	定期考査				a、b	
5 6	漢文入門	4 B「読むこと」古典	漢文の学習 訓読に親しむ (一)～(三)	・漢文の構造や訓点の働きを理解し、漢文を訓読できるようにするとともに、格言に多く触れることにより、語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	a	授業態度 発問評価 指名音読 ワークシート
	故事成語	5 B「読むこと」古典	『戦国策』 漁父之利 狐借虎威 蛇足	・故事成語の生まれた背景・事情をつかみ、内容や展開を的確に捉える。 ・我が国の言語文化に大きな影響を与えた漢文に興味・関心を深めるとともに、我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。	b c	小テスト 定期テスト 振り返りシート
6 7	随筆	6 B「読むこと」古典	『徒然草』	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めている。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	a b	授業態度 発問評価 指名音読 ワークシート
	小説	6 B「読むこと」近代以降の文章	『羅生門』	・近代小説の名作に親しみ登場人物の心情変化を表現に即して読み味わい、作品の成立した背景を踏まえて、内容の解釈を深める。	b	小テスト 定期テスト 振り返りシート
	定期考査				a、b	
	小説	2 A「書くこと」	『羅生門』	・典拠となった『今昔物語集』の説話と読み比べ、読書レポートを通して小説構築に関わる作者の工夫や自分の考察や解釈を積極的に表現しようとしている。	c	授業態度 発問評価 発表・報告 読書レポート

8 9	史伝	6 B「読むこと」古典	『十八史略』 完璧 先従隗始	・史伝という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・訓読のきまりを理解する。	b a	授業態度 発問評価 指名音読 ワークシート
	漢詩	3 B「読むこと」古典	唐詩の世界	・表現や技法に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々の思いを読み取る。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解しようとしている。 ・漢詩のきまりを理解する。	b c a	小テスト 課題考査 定期テスト 振り返りシート
9 10	日記	8 B「読むこと」古典	『土佐日記』 門出 帰京	・我が国最初の日記文学を読み、記録としての日記とは異なる表現方法と随筆意図を読み解く。 ・主として助詞について文語の決まりを理解するとともに、語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	b a	授業態度 発問評価 指名音読 ワークシート 小テスト 定期テスト
		2 A「書くこと」		・学習の見通しをもって虚構性の高い日記を読み、執筆意図などについて背極的に批評したり討論したりしようとしている。	c	振り返りシート
10 11	史伝	3 B「読むこと」古典	『十八史略』 臥薪嘗胆	・やや長めの史伝を読んで登場人物を押さえ、主要な人物の考えや主張を読み取りながら内容や展開を的確に捉える。 ・訓読のきまりを理解する。 ・登場人物の言動を粘り強く読み取り、展開を押さえて登場人物を整理しようとしている。	b a c	授業態度 発問評価 指名音読 ワークシート 小テスト 定期テスト 振り返りシート
	歌物語	4 B「読むこと」古典	『伊勢物語』 芥川 東下り	・歌物語における和歌の役割を押さえながら内容や展開を的確に捉える。 ・歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って和歌の果たす意味を捉えようとしている。	b c	
11 12	小説	6 B「読むこと」近代以降の文章	『城の崎にて』	・小説という文章の種類を踏まえて内容や構成、展開などを的確に捉える。 ・三つの小動物の死と関連して心境が語られる構成を読み取り、作中に示された死生観について考えを深める。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにし、読書の意義と効用を理解しようとしている。	b b a	授業態度 発問評価 指名音読 ワークシート 小テスト 定期テスト 振り返りシート
	定期考査				a、b	
	小説	2 A「書くこと」	『城の崎にて』	・『いのち』と粘り強く読み比べ、自分の考えを論述しようとしている。 ・読書レポートを通して自分の考察や解釈を積極的に表現しようとしている。	c	授業態度 発問評価 発表・報告 読書レポート

1	物語	8 B「読むこと」古典	『平家物語』	・和漢混淆文など歴史的な文体の変化について理解を深めるとともに、作品に表れている無常観や武士の生き方を捉え、内容を解釈する。 ・主として敬語について文語のきまりを理解する。	b a	授業態度 発問評価 指名音読 ワークシート 小テスト 課題考査
	思想	4 B「読むこと」古典	『論語』	・日本にも大きな影響を及ぼした『論語』について知り、孔子のものの見方や考え方を理解するとともに訓読のきまりや、漢文特有の表現などについて理解を深める。	a、b	定期テスト 振り返りシート
2 3	随筆	2 B「読むこと」古典	『徒然草』	・さまざまな文体を駆使した随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉えるとともに古文を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深める。	a、b	授業態度 発問評価 指名音読 ワークシート
	和歌・俳諧	1 B「読むこと」古典	『万葉集』 『古今和歌集』	・和歌という文章の種類を踏まえて、情景や心情など、内容や展開を的確に捉えるとともに、主として枕詞や序詞などの和歌の修辞について、文語のきまりを理解する。	a、b	小テスト 定期テスト 振り返りシート
	短歌・俳句	3 B「読むこと」近代以降の文章	『その子二十才』 『こころの帆』	・我が国の伝統文化のひとつである短歌・俳句の鑑賞のしかたを理解し、近代を代表する歌人・俳人の作品を味わう。 ・作品に表れている情景や心情を鑑賞し、自分のものの見方、感じ方を豊かにしようとしている。	b c	
	定期考査				a、b	
	小説	5 B「読むこと」近代以降の文章	『夢十夜』	・小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 ・「夢」という設定の中で判断やその根拠を捉え、内容及び作品世界の解釈を深めている。	b b	授業態度 発問評価 発表・報告 読書レポート
		4 A「書くこと」		・読書レポートを通して自分の考察や解釈を積極的に表現しようとしている。	c	

計 96 時間 (55 分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A 「書くこと」 10 時間	B「読むこと」古典 66 時間	B「読むこと」近代以降の文章 20 時間
-----------------	-------------------	--------------------	-------------------------

7 課題・提出物等

- ・ワークシート、課題等の提出物の点検は、随時行います。
- ・小テストは、随時行います。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

「言語文化」は、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を育成する科目です。言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指します。授業では、基礎・基本を大切にしながら、実際に読んだり、書いたりする学習活動を通して応用力を高めていきます。積極的に授業に参加し、楽しみながら国語の能力を身に付けていきましょう。